







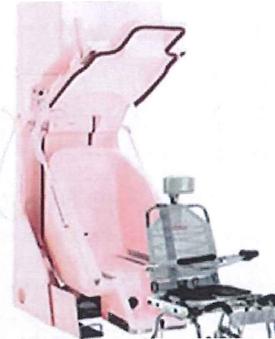
# 介護する方の負担軽減する福祉用具には どんなものがあるの？

福祉用具と聞いて、まず思い浮かぶのは「車椅子」や「介護用ベッド」ではないでしょうか。しかし、高齢者や障害者の自立に役立ち、介護する方の負担を軽減する役割をもつ最新の福祉機器が普及されようとしています。

公益社団法人かながわ福祉サービス振興会介護ロボット推進課参照



トイレアシストは、被介護者のトイレへのアプローチ支援機能、被介護者の着座支援機能、被介護者の姿勢保持支援機能、介護者の行う洗浄・清拭動作支援機能などを併せ持ち、排泄介護動作を総合的に支援するシステムです。



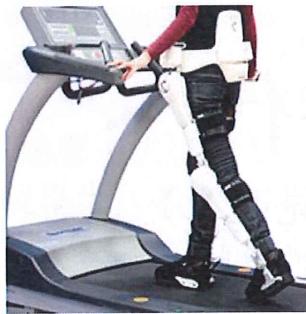
「hirb」ハーブの現場において重労働とされる入浴作業の課題を解消し入浴者と介護者にとって楽しく快適な入浴を実現したコンパクト設計のケアバスです。



3種類のバンドを交換することによって、1) 移乗、2) オムツ交換、3) 歩行訓練などを行うことが出来ます。最大の特徴は、操作を音声指示で行うことが出来ることです。



介護支援ロボット「RIBA (リーバ)」は、実用的な介護支援ロボットを実現するため、実際の人間の抱き上げを目標として開発されました



ロボットスーツ HAL の全身タイプがパワーアップされ、装着時の腕力は片腕で大人を楽に持ち上げられるようになりました。

画像は下肢のみ装着



使用者の体重の一部を機器が支えることで、脚の筋肉と関節（股関節、ひざ関節、足首関節）の負担を軽減します。

## 「中高年の社会参加」が必要になる時代に！

総務省が発表した2013年10月時点の推計人口によると、65歳以上の高齢者は過去最高の25.1%に達しました。一方で15～64歳の生産年齢人口が32年ぶりに8千万人を割り込み、中高年の社会参加が不可欠となっています。また健康寿命の伸長、年金支給開始年齢の引き上げなどからできるだけ長く働きたいと考える方が増えています。これら背景に対応し、国は高齢者雇用安定法を定め、定年の引き上げや継続雇用制度の導入、定年制の廃止からいざれかを選んで実施する事を義務付けています。また高齢者が「生きがいを得るために就業」を得ることを支援する団体とし

て各自治体にシルバー人材センターが設置されています。シルバー人材センターは地域の家庭や企業、公共団体などから請け負った仕事をセンターに登録している定年退職者などの高齢者から適任者を選んで遂行します。また地域の活力を維持する上で中高年のボランティア活動も重要です。江東区では江東区ボランティア・センターにてボランティア活動のコーディネートや様々なバックアップを行っています。無償または交通費などの実費のみの支給である場合が多いですが、長年培った経験を社会に役立てる事ができ「社会貢献」という生きがいを見つける方も増えています。







